

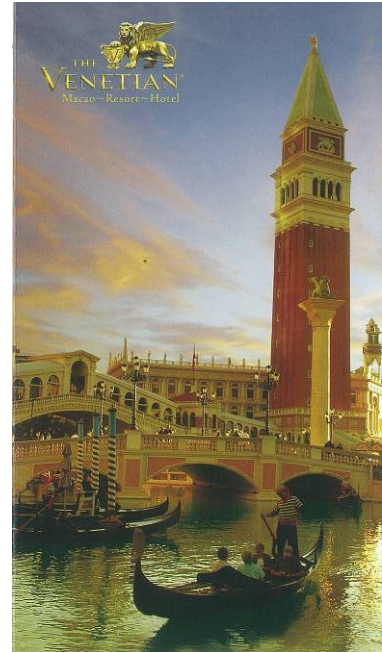
(2) マカオのカジノ施設について

1) ベネチアン・マカオ

聞取対象者：鎖售業務副總監

(ア) コタイ地区の開発及びベネチアン・マカオの概要

- ① タイパ島は 90 年代から開発が進んだ。サンズ（ベネチアン・マカオの運営会社）も共同開発の一員で、費用は 10 億 US ドルとなっている。
- ② コロアン島とタイパ島間（現コタイ地区）の埋め立て資金を提供することが、本事業への参加条件であった。埋め立て費用は 3,000 億円で、土地は政府へ寄付し、リース契約を交わしている。
- ③ ベネチアンはコタイ地区で進められている大規模プロジェクトの 6 区画のうち 1 区画を担当しており、本施設周辺でフォーシーズンホテル（328 室）、シェラトン（4,000 室）等の整備を進めており、将来的には 13,000 室のホテル群が完成する。
- ④ ホテルとは別に、シアター（1,500～1,800 席）の建設計画もあり、「ショー」「食事」「宿泊」「ショッピング」等を合わせた総合的エンターテイメントを目指している。
- ⑤ マカオにおけるラスベガスを目指しており、自然の観光資源が少ないことから、MICE（企業ミーティング、報奨旅行、国内・国際会議、イベント・展示会）の誘致を行っている。
- ⑥ 誘客対策、移動の利便性を高めるために、香港とマカオを結ぶ船会社（16 機）を経営（今後は船内でのチェックイン手続きができるようにしたい）、シャトルサービスを行っており、モノレールについても検討している。
- ⑦ 香港との架橋（58 キロ）ができると、約 35 分で移動が可能となる。
- ⑧ ターゲットは、中国を含めたアジア圏域である。ヨーロッパの方々は、本物志向なのでマカオで模倣したベネチアンを見ても喜ばないだろう。
- ⑨ ベネチアン・マカオの敷地面積は 30 万㎡、建物延べ床面積は 96.8 万



m²で、東京ドーム、大阪城ホール、幕張メッセと一緒にあるイメージである。

- ⑩ 従業員は 12,000 人、系列のサンズまで加えると 20,000 人と、マカオ人口の 4%を雇用している。中国、フィリピン等が多いが、世界各国から集まっている（35 カ国 40 パスポート）

(イ)カジノについて

- ① カジノフロアの面積 51,000 m²、テーブルゲームが 780 台、スロットマシン 3,550 台あり、世界で最も大きいカジノである。2 番目に大きなカジノは、マカオ市内のサンズ（ベネチアン系列）で、カジノフロア面積 38,000 m²である。
- ② ベネチアンは、カジノ以外にも多様な施設を備えているが、カジノがあって初めて成り立つ施設である。
- ③ 施設利用の約 7 割はカジノ利用者で占めているが、ノンカジノ者向けの施設提供も目指している。

(ウ)その他施設について

- ① 宴会場面積は 6,500 m²で、パーティーによっては 108 パターンで利用方法がある。全フロアを使用すると円卓 500 卓、5,000～6,000 人の利用が可能。別フロアにも 1,300 m²×4 つ、地下 3 つの宴会場を備えている。
- ② コンベンション施設は、1 階部分の観客席を収納すればサッカーの試合も可能。コンサート会場としても使用しており、3 月 15 日にはセリーヌディオン、8 月からはシルクドソレイユの定期公演を予定している。
- ③ ショッピングモール（200 店舗）は、カジノをコンセプトに、比較的安価なブランド品の構成。高級ブランド品は、現在整備中の施設に入居予定で、完成すれば 300 店舗規模になる。

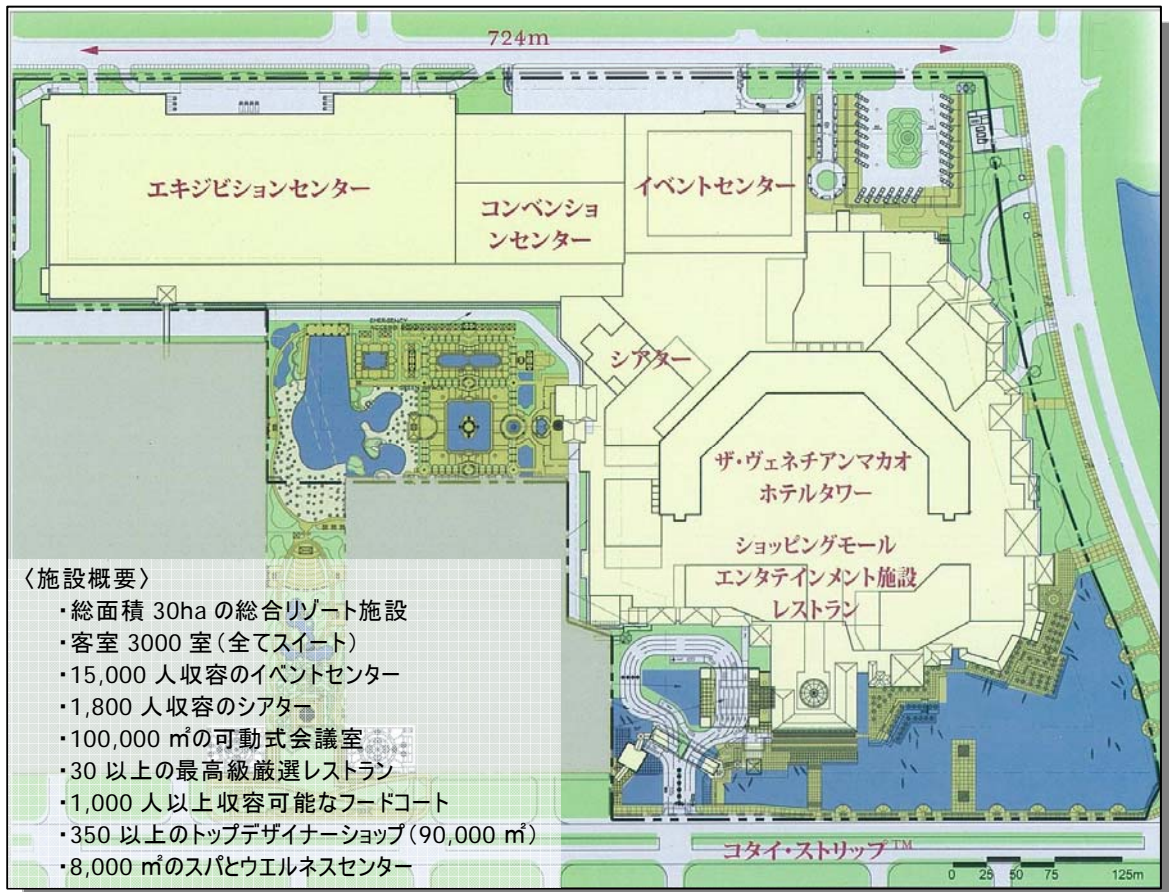


- ④ 展示会場は、総面積 37,000 m²で、端から端までの長さが 400m ある。

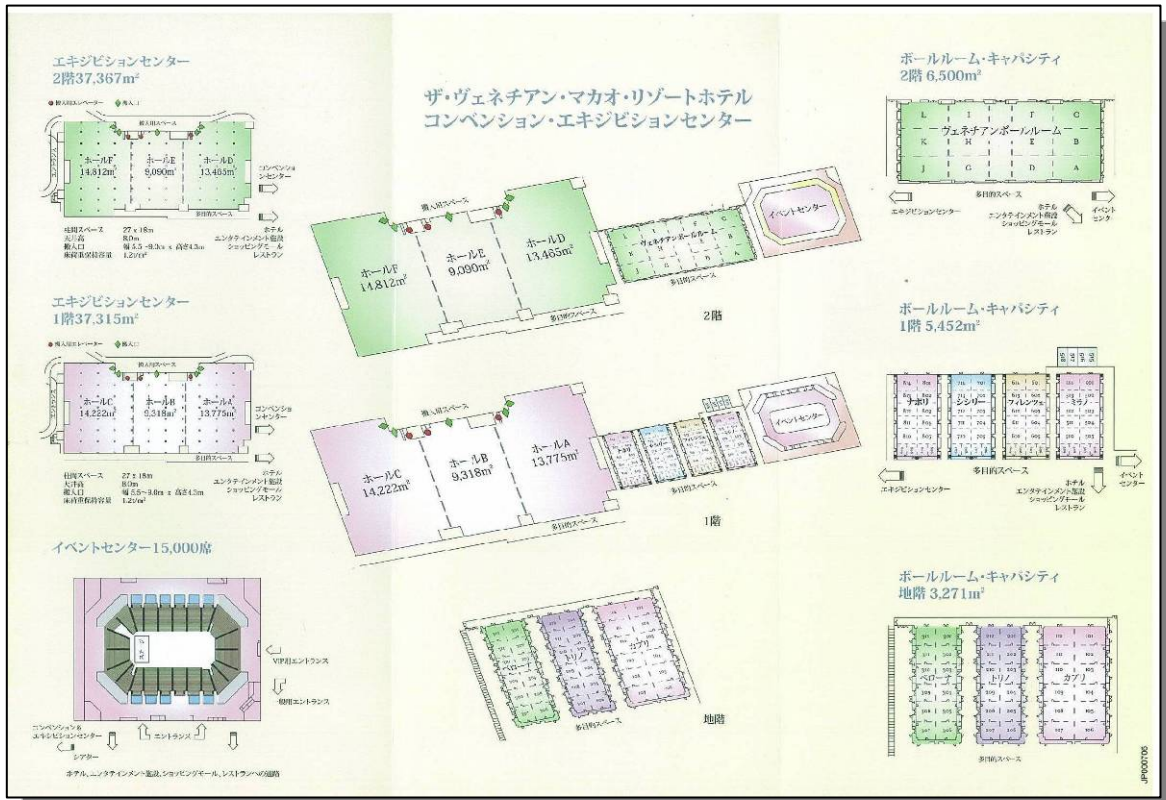
これまでに全室使用しての展示会は1件のみ（ジュエリーフェア）である。

(エ) 日本への進出意向について

- ① 日本への進出も検討しており、以前は第一候補が東京都であった。
- ② 沖縄は、マカオにない自然に優れており、韓国等の外国人に人気があるので、注目している。



ベネチアン・マカオ施設配置



ベネチアン・マカオバンケット関連施設の規模

2) クラウン・マカオ

聞取対象者: 前堂副經理

- ① オーストラリアのメルコ PBL の資本が入っているホテルで、カジノに加えてスパ等が完備されていることから 6 つ星となっている。
- ② 全体的にマカオ半島が眺められるつくりになっており、世界最大の花火大会も鑑賞可能である。客室階は 18~36 階で、全室オーシャンビューを基本にしており、施設片側のみに客室が配置されている。
- ③ 16 階のスパは、プライバシーを守るための工夫が施されており、エステ、カップルルームも用意している。アメニティは世界的に有名なものを使用している。
- ④ 15 階のカジノルーム (6 部屋) は、社用族がカジノで接待する場合に利用する部屋で、ホテル側は部屋、及びオペレーター (ディーラー 3 人) を提供している。
- ⑤ 9 階のカジノルームは、ハイローラー (大金を賭ける利用者) のための VIP ルームである。VIP ルームは安全性、プライバシー等を考慮して、カジノ内だけのエレベーターを設けるなど宿泊客との動線を分けている。
- ⑥ VIP ルームでのチップは最大 100,000 香港ドル (130 万円) で、チップは現金換え (楕円)、信用貸し (四角) の両方がありその形状で判別できるようになっている。
- ⑦ 一般客のカジノは 1 階から配置されており、訪れた時間帯が日中のせいか利用者は少なめであった。比較的テーブル間のスペースが広く、落ち着いてゲームができる雰囲気である。



ホテルの外観。チェックインはホテル最上階の 38 階で行う。

⇒十六階にある扇形のプールからもマカオ半島が一望できる。目の錯覚を利用して、プールで泳ぐと目の前の海を泳いでいるようになって分が味わえるようになって



⇒スパ内の様子。スパ以外にも施設内にはデザインナースブランド的な調度品が使用されており、おしゃれで落ち着いた雰囲気が流れている。



3) その他のカジノ施設

(ア) グランド・リスボア・カジノ

- ① 現在はカジノ部分のみオープン、宿泊部分は工事中。
- ② 旧リスボアは鳥籠、新リスボアは許可をするための印鑑をイメージして建てられている。
- ③ 19歳以上なら、入口で手荷物検査を受けると誰でも気軽に入れる。
- ④ カメラ撮影不可（持ち込みは可能）。
- ⑤ 生もの持込不可（専用のクロークに預けることができる）。
- ⑥ 以上③～⑤は全てのカジノ共通で実施されている。

⇒カジノ外観。下の円形部分がカジノとなっており、宿泊部分（上）は建設中。道向かいには（旧）リスボアホテルもある。



1階カジノ入口の様子。受付の支持で入口を通り、中に入る。カバンを持っている場合は、自分で開け、入口で簡単に中をチェックされる。

(イ) MGM グランドマカオ

- ① 2007年12月オープン。
- ② ラスベガスMGM グランドのマカオ進出カジノホテル。
- ③ 訪れたのが日中のためか、客は少なめで落ち着いた雰囲気がある。
- ④ 調度品等のづくりも落ち着いた。



カジノエントランス①。施設の中庭（屋根つき）に面し、日差しが差し込み明るい雰囲気となっている。



カジノエントランス②。手前には噴水やベンチ等がある。

(ウ) スターワールド

- ① 2006年10月オープン（香港系の資本）。
- ② 施設ロビーではお香が焚かれているのか白檀のよい香りがする。
- ③ 2階部分のカジノ（テーブルゲーム中心）はフロアが狭いせいか、利用者間の距離が狭く、日中であっても人数が多く感じる。
- ④ 利用者の掛け声がよく響いていた。



施設ロビーの様子。白檀の良い香りがただよっている。



1階のカジノ入口の様子。他の施設同様に手荷物がある場合は検査を受ける。

(エ) ウィン・マカオ

- ① 2006年9月オープン（アメリカ系列の資本）。
- ② ウィン・ラスベガスのマカオ進出カジノホテル。
- ③ 高級ブランドショップがいくつも立ち並んでいる。
- ④ カジノ内は明るく清潔なイメージであり、日中でも利用者が多い。
- ⑤ 施設内では天井ショー、外では噴水ショーがある等エンターテインメント性が強い。



カジノへ向かう途中にいくつもの高級ブランドショップが立ち並んでいる。



カジノ入口の様子。

(オ)ニュー・センチュリー・ホテル(カジノ)

- ① マカオ大学に隣接するカジノホテル。
- ② 中国本土との境である珠海行きのバス（無料）が出ているためか、ロビー周辺にも利用者の往来が多く見られる。
- ③ 日中でも利用者が多い。カジノ内のベンチで休憩している利用者も多く見られる。



(カ)ザ・ランドマーク・マカオ

- ① エジプトの宮殿がイメージされている。
- ② 各階にカジノが設けられているが、ワンフロアごとの規模は小さめ。
- ③ 入場にはパスポートによる手続きが必要。顔写真を撮られ、1年間有効の入場カードが発行される。
- ④ 落ち着いた雰囲気でのカジノができる。



※写真は「マカオ観光情報局」HP より

